

釧路市内の中学校2校の校外展が21日、市内2カ所で始まった。新型コロナウイルスの影響を受ける中でも創作に励んだ中学生たちの力作が並ぶ。いずれも期間は23日午前中までで、関係者は感染症対策を講じた上での観覧を呼び掛けている。

(郷裕策、片山新平)

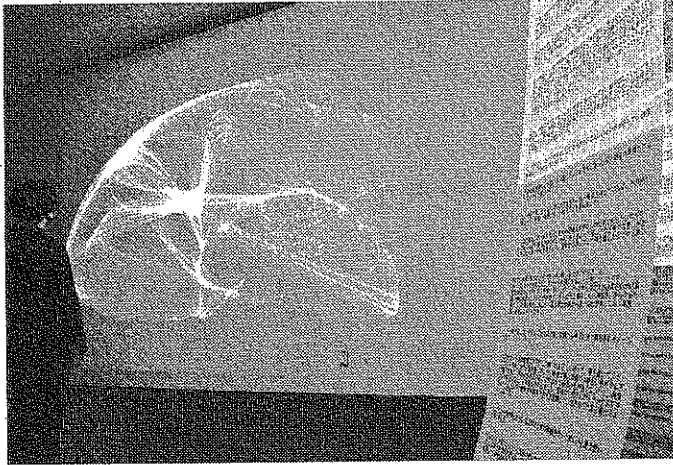
プログラミング言語 使って映像を制作

附属釧路

○北海道教育大学附属

釧路中学校の3年生102人がプログラミング言語を使って制作した映像を紹介する企画展は、道立釧路芸術館フリーアートルーム

プログラミング言語で作られた映像を紹介する附属中の企画展



で開催。4教科にまたがる授業の一環で、生徒たちの思いが新時代の方法で表現されている。

映像制作のために使われ

た手法は「ビジュアルコーディング」と呼ばれ、文字や数字、記号の組み合わせで画面上にさまざまな形を作ることが可能。動きや色などの設定もできる。

生徒は「コロナ禍を生き抜く人々を思う」をテーマに、美術と技術・家庭科、数学、音楽の授業で制作に取り組んだ。会場では無数の水玉模様が徐々に浮かび上がってくる映像や、木の枝に「happiness」(幸福)の文字が次々と映く作品などを、映像を作り出しているプログラムの文字列とともに生徒が自作した音楽に乗せて放映。コメントも掲示している。

美術の更科結希教諭は「これからの子供たちに知ってほしい新たな表現の一つなので見ていただければ」と話している。午前9時30分、午後5時(最終日は正午まで)。入場無料。